本文は、西暦五八八年の火々禽（ほほとり）の柵の戦で、彝之昂弓乃（いのあてない）を族長とする蝦夷（えみし）、眞神斗人（まがみとうじん）の族（やから）が大和朝廷軍に撃破され、天照皇大御神を奉じることを誓約した西暦六一五年の大転回から一四〇〇周年を記念して祝祭が企画されたとき、眞神村・畝邨村・龍呑村・龜鹽村・薙久簔町（いわゆる眞神郡）の合同企画委員会が公募した祝祭に寄せる特別論文のうち、最優秀賞を与えられた彝佐早蕨の文である。その受賞発表の同年同月に、眞神之会友（Mgami Toujin Associates）がこの極小論文を出版し、眞神の大御社に奉納した。



憂多羅

彡佐早蕨（いさ さわらび）　著叙

Copyright©

Sawalaveeh Iyesaah　*2015* All Rights Reserved.

Published　by

Mgami Toujin Associates

憂多羅　目次

本文　憂多羅　四

天津祝詞祓詞　六

Ἐν ἀρχῇ ἦν ὁ Λόγος, καὶ ὁ Λόγος ἦν πρὸς τὸν Θεόν, καὶ Θεὸς ἦν ὁ Λόγος.

（初めにロゴスありき。ロゴスは神とともにありてロゴスは神なりき）

ヨハネスによる福音（Κατά Ιωάννην Ευαγγέλιον）

幼少以来、只管（ひたすら）に原理（アルケーαρχη）を求めてきました。

究竟（くきょう）窮極の真理奥義エンチクロペディー（Enzyklopädie）があるべきであると考えていました。

しかし汎ては基礎・本質のない建物であることが了解されています。

むろん右のような概念も一つの建物です。一切行無常、又は諸行無常なのです。

すなわちこれ以上、言語（ロゴスλόγος）＝概念（イデアιδέα）を掲げても、無爲ということです。しかもそういう判断すら停止（エポケーἐποχή）すべき･･･というさえも???未遂不収。同義反復（トートロジーταυτολογία）的な無限旋律（unendliche Melodie）に陥る丈（だけ）です。

仏陀が論争の終結を唱え、対機説法において無記、或いは捨置・除却を言うのはそういうことなのです。

ちなみに対機説法とは、説法をする相手の資質・気質や、その情況に応じて話す内容を変える教化方法です。

たとえば。

優多羅（ウッタラ）という名の少年婆羅門（バラモン）が或る日、思い立って釈迦の許（もと）を訪れ、屈託ない若々しい表情で尋ねた。

「僕は毎日、掟に従って家々を廻っては托鉢し、これを以て両親を供養して三度の食事に不自由をさせたことはありません。

余程の功徳があると思うのですが、如何でしょうか」

釈尊は欣然として答えた。

「父母を恭敬して供養するならば、生きては世間で評判のとなり、賞讃され、死して後は天上に往生するであろう」

また、或る王から、

「昼夜問わず功徳を増やすには如何様にすべきか。
天上に生まれるには如何様にすべきか。
二つに就いて詳述して欲しい」
と乞われ、
「園林を種植し、樹陰の清涼を往来の人に与えなさい。川を渡る橋や船を造って、人々の利便を図りなさい。無料の宿泊場所や飲食場所を設けて困窮する者を援けなさい。井戸を穿って渇水に備えなさい。旅人のため、宿を整備しなさい。
左様にすれば功徳を増やし、天上界に生まれ変わるでしょう」
と応えています。
これは僧伽藍が地面に置かれた幼い我が子も顧みない態度を釈迦が「善哉沙門」と讃えたことや、「諸人民で彼岸に度る者は希有である。一切世間は徘徊して此岸に遊ぶ」などと叙べたことを想い合わせると、一見矛盾します。
しかし仏陀は総ての仏教は無明の暴濫を度って彼岸へ至るための筏であるとしているのです。すなわち度った後は乗り捨てられるべきものであると考えていました。未来永劫の恭敬礼拝したり、奉祀したりすべきものではないとしているのです。一切行無常と思えば真理など染著に過ぎない。しかし一切行無常ということをも真理として奉じ祀ればそれが亦た染著となってしまう。すなわちこれ以上、言語（ロゴス λόγος）＝概念（イデア ἰδέα）を掲げても、無爲ということです。しかもそういう判断すら停止（エポケー ἐποχή）すべき･･･というさえも？？？　未遂不収。同義反復（トートロジー ταυτολογία）的な無限旋律（unendliche Melodie）に陥る丈です。

ただ鳥居があるのみで、本殿も幣殿も拝殿もない檜原神社や飛龍神社の如きものです。きよらさやかを尊ぶ、古神道の清明精神は染著を厭離しています。

平成二七年六月吉日

天照皇大御神へ右真誠乃言を惶み惶み奉献せんと奴彝佐早蕨曰く。

高天原爾 神留坐須

神漏岐 神漏美乃 命以知氐

皇親神伊邪那岐乃大神

筑紫 日向乃 橘乃 小門乃 阿波岐原爾

禊祓比給布時爾 生坐世留 祓戸大神等

諸々禍事罪穢乎 祓閉給比 清米給布登 申須事乃由乎

天津神 地津神 八百万神等共爾

天乃斑駒乃 耳振立氐 聞食世登 畏美畏美母白須

憂多羅　書画彫工目次

出像画工　同源（どうげん）叭羅蜜斗（ぱらみと）

浄書筆工　天平（あまひら）普蕭（ふしょう）

剞劂人　彝之（いの）〆裂（いれつ）

時平成廿七年乙未夏水無月吉日全書無闕遺焉

天之（あまの）哥舞妓（かぶき）

平衛（ひらえ）隆臥（たかふし）

天易（あまやす）真兮（まことや）

白舟（しらふね）大楽（たいらく）

炎（ぼの）春慶（しゅんけい）

発販
書行